

- ・2016年3月期決算
- ・第9次中期経営計画(Challenge 1500)

説明会資料

開催日:2016年5月17日(火)

2016年5月17日にアナリスト・機関投資家の方々を対象とした「2016年3月期決算・第9次中期経営計画 説明会」を開催いたしました。決算概要、業績予想、第9次中期経営計画(Challenge 1500)などを説明いたしました。内容につきましては、次ページ以降に掲載しておりますのでご覧ください。

2016年3月期

- ・ 決算説明資料
- ・ 第9次中期経営計画説明資料



2016年5月17日
サンワテクノス株式会社

本資料取扱い上の注意点

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展等により変動することがあります。
- 従いまして、実際の業績等が記載の予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

- 2016年3月期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)について

- 2016年3月期 決算概要
- 2017年3月期 業績予想
- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)について

連結決算の概要について

・ 前年同期比で減収減益

(単位：百万円)

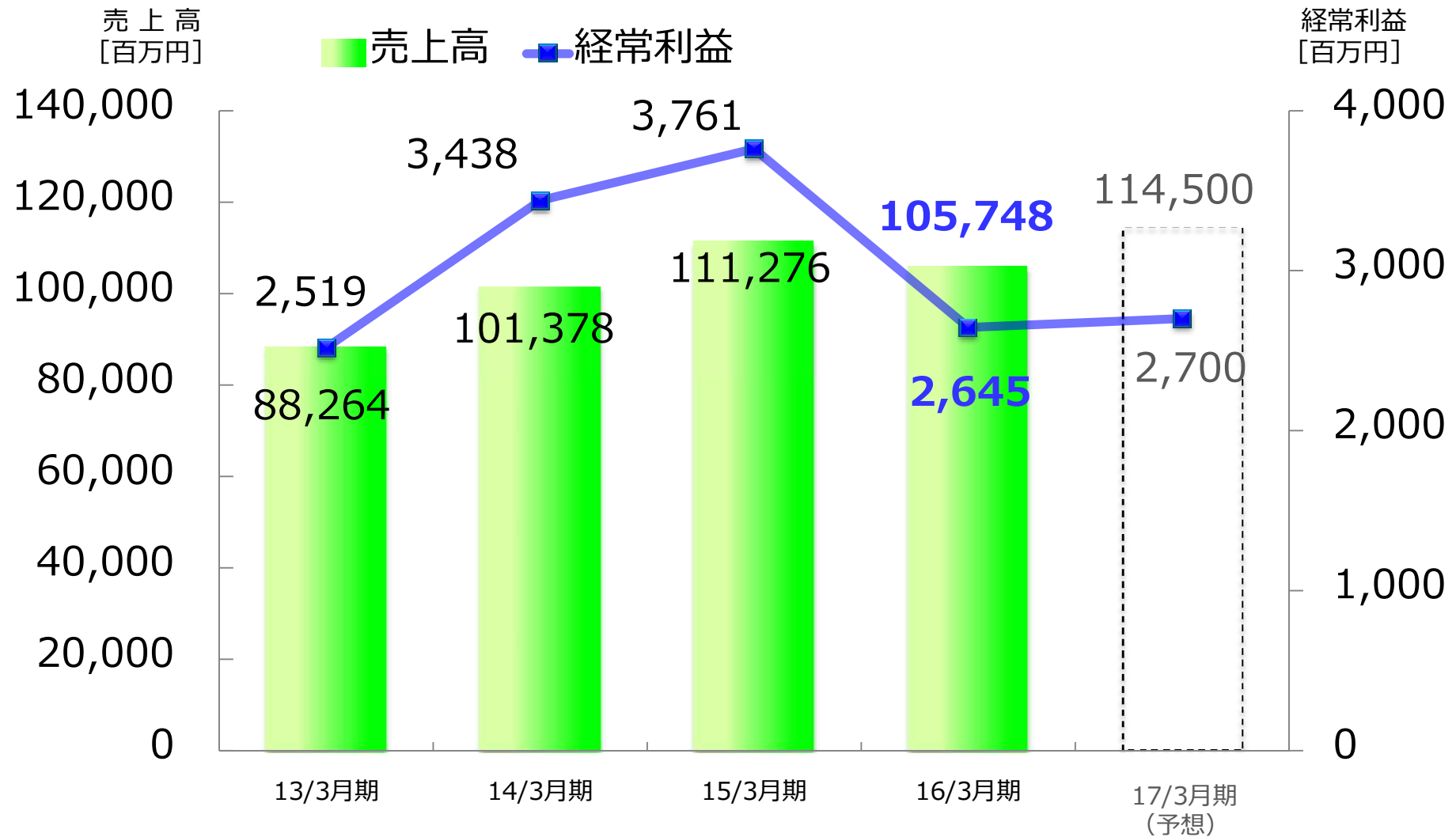
	前期	当期	増減額	対前年同期 増減率
売上高	111,276	105,748	△5,528	△5.0%
営業利益	3,471	2,444	△1,027	△29.6%
経常利益	3,761	2,645	△1,116	△29.7%
当期純利益 (※)	2,466	1,690	△776	△31.5%
1株当たり 当期純利益	171.83円	117.76円	△54.07円	△31.5%

【連結決算の概要について】

半導体・液晶業界、アミューズメント向けの売上高が減少しました。また、電機・電子・機械の複合ビジネスに“エンジニアリング力”をプラスし、次期中期経営計画（Challenge 1500）も見据えて積極的な先行投資を展開したことに伴い販売費及び一般管理費が増加したことにより減益となりました。

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益

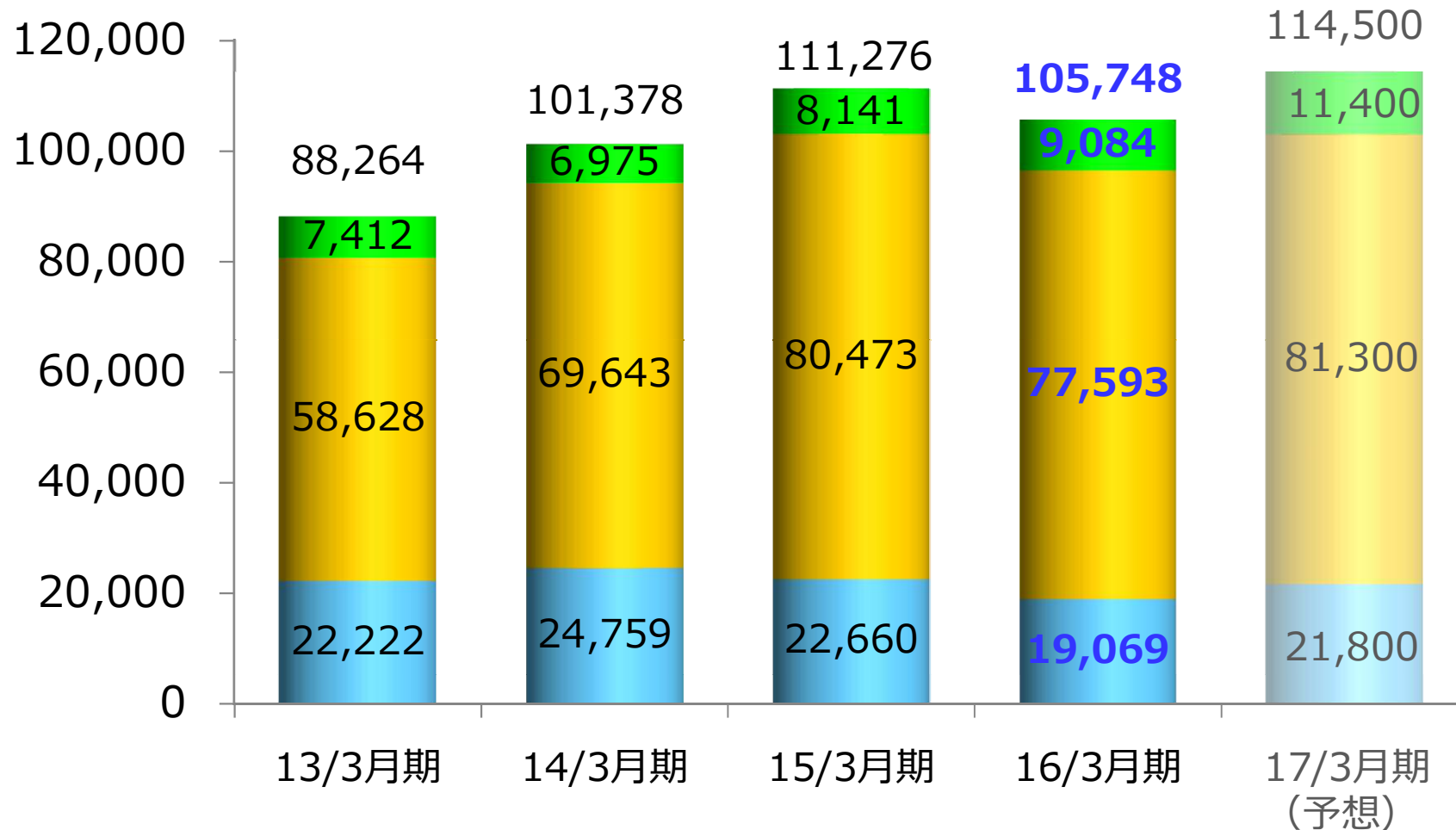
売上高及び経常利益推移（連結）



部門別 売上高推移表

■ 電機部門 ■ 電子部門 ■ 機械部門

(単位：百万円)



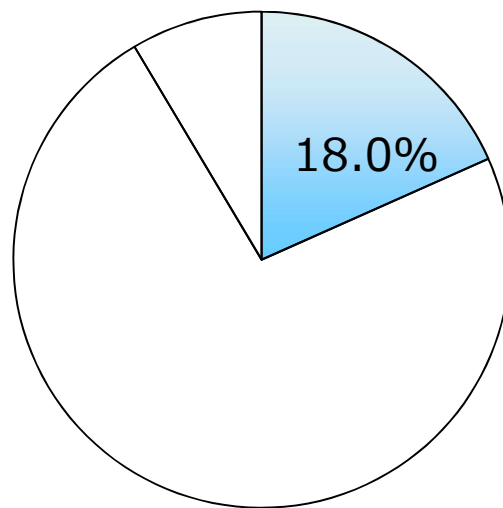
部門別の概要【電機部門】

■ 売上高

2016年3月期 19,069百万円（前期比 15.8%減）

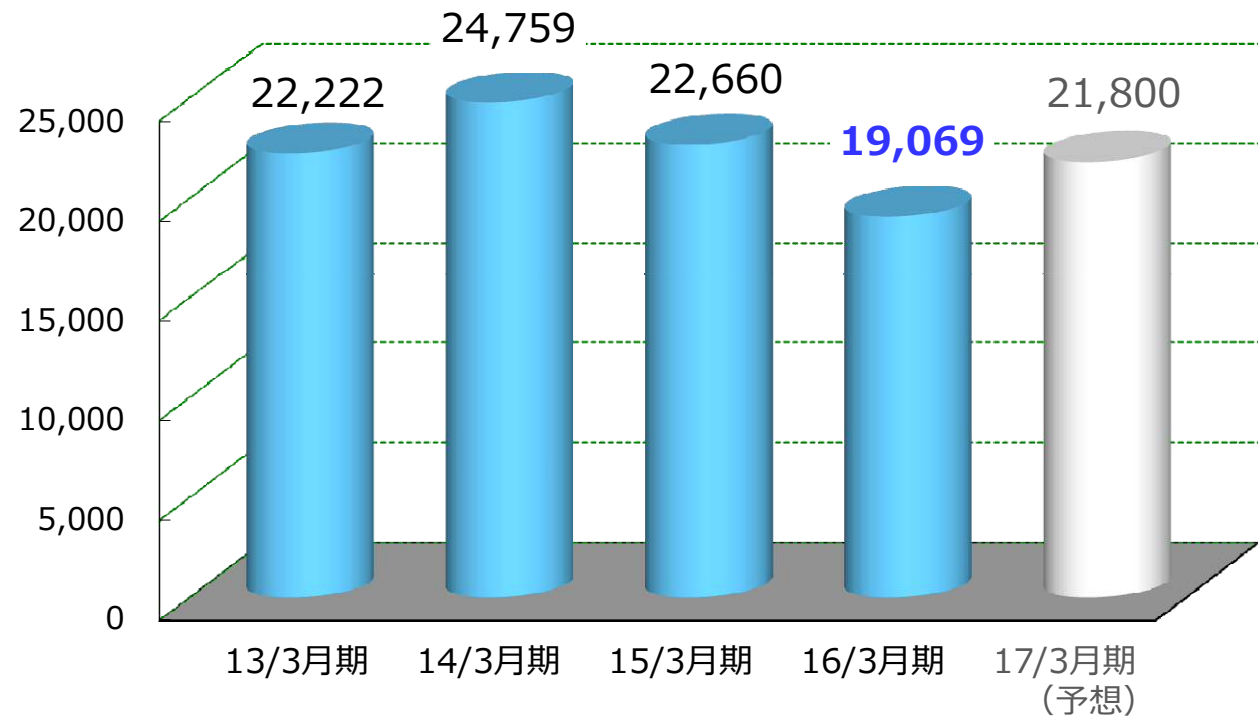
2015年3月期 22,660百万円（前期比 8.5%減）

■ 売上高構成比率



■ 売上高推移表

（単位：百万円）



売上高構成比率 25.2% 24.4% 20.4% 18.0% 19%

■ point

- ・ 半導体製造装置向けの電機品の販売が増加
- ・ 産業機械業界向けのサーボモータの販売及び太陽光発電システム向けの制御機器の販売が減少

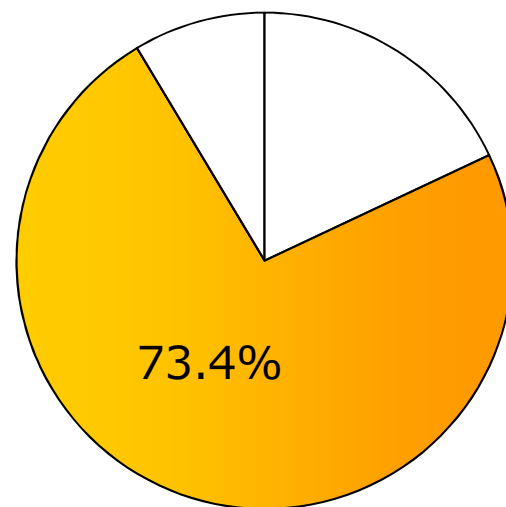
部門別の概要【電子部門】

■ 売上高

2016年3月期 77,593百万円（前期比 3.6%減）

2015年3月期 80,473百万円（前期比15.6%増）

■ 売上高構成比率



■ 売上高推移表

（単位：百万円）



売上高構成比率 66.4% 68.7% 72.3% 73.4% 71%

■ point

- ・自動車関連業界向け及び産業機械業界向けの電子部品の販売が増加
- ・アミューズメント向けの電子部品の販売が減少

部門別の概要【機械部門】

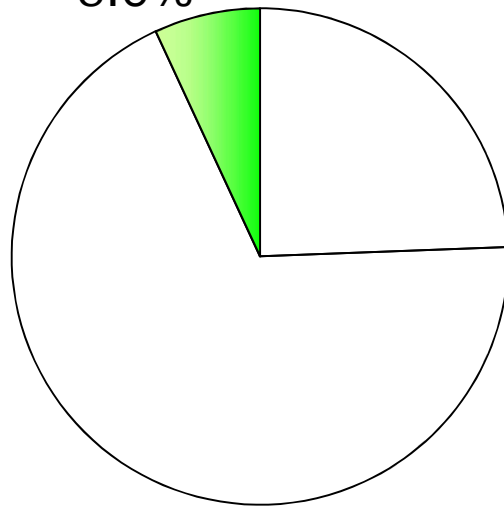
■ 売上高

2016年3月期 9,084百万円（前期比11.6%増）

2015年3月期 8,141百万円（前期比16.7%増）

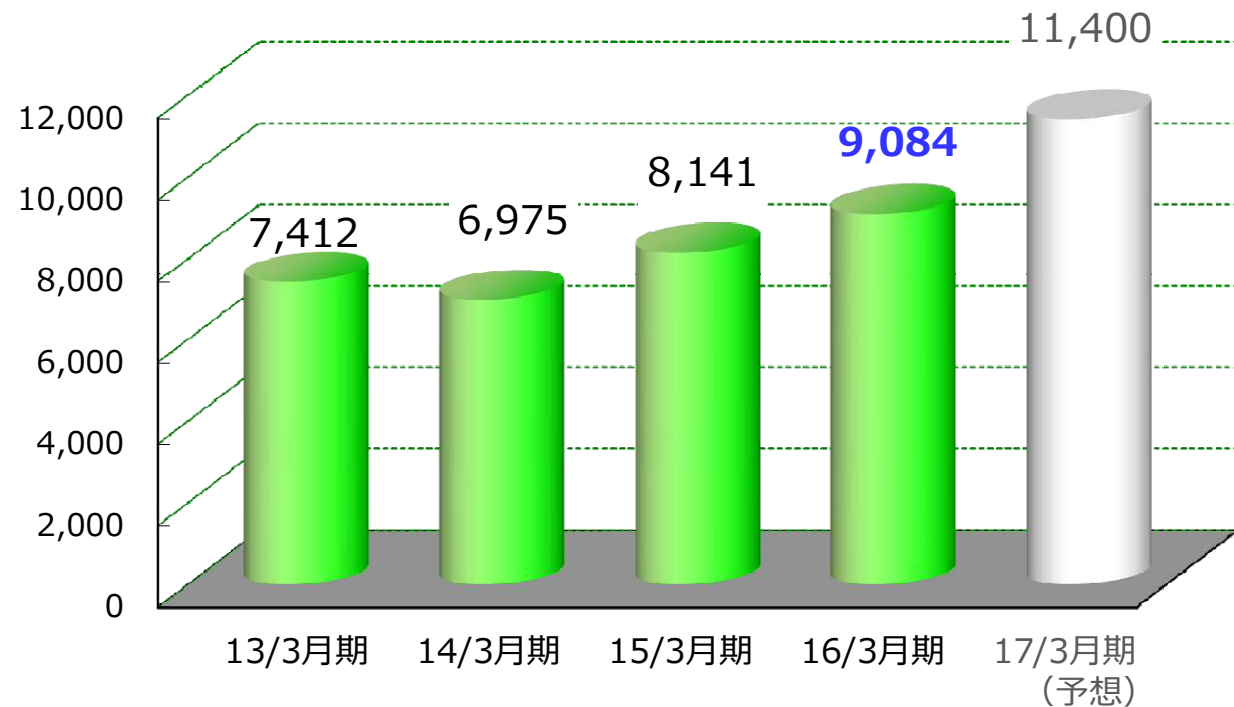
■ 売上高構成比率

8.6%



■ 売上高推移表

（単位：百万円）



売上高構成比率 8.4% 6.9% 7.3% 8.6% 10%

■ point

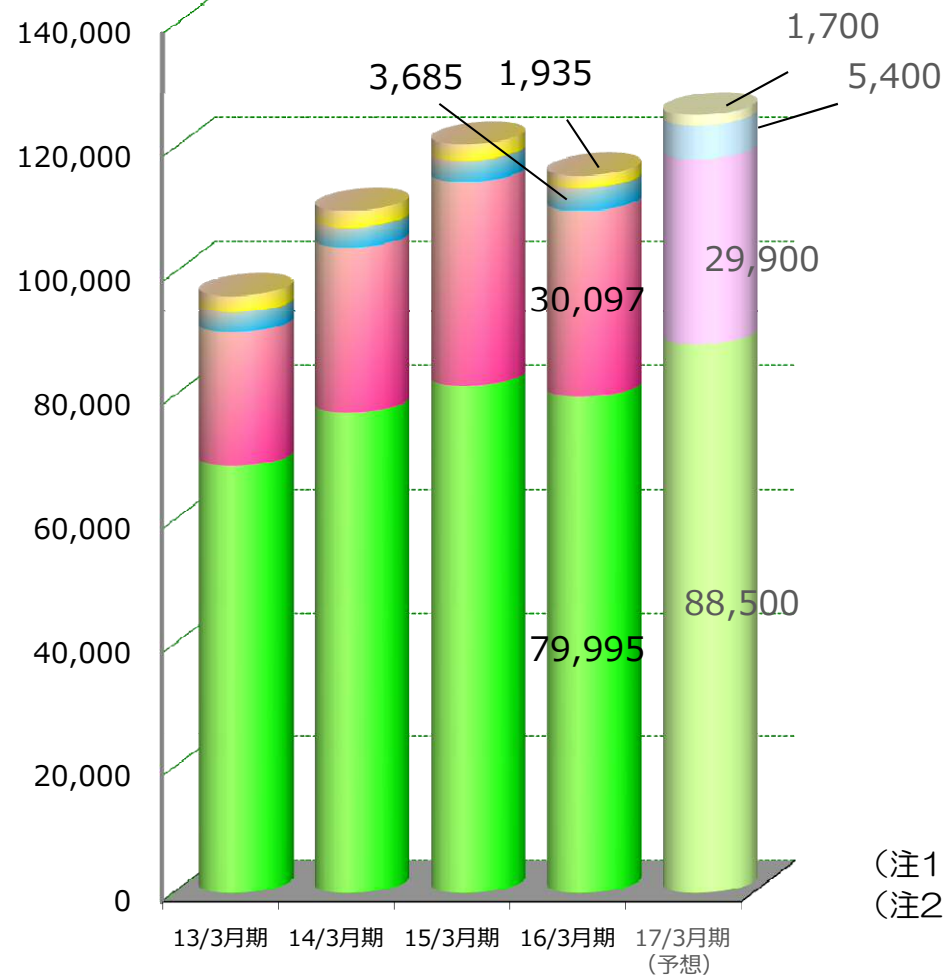
- ・ 住宅設備業界向けの実装機の販売、自動車業界向けの生産設備の販売が増加
- ・ 液晶搬送設備向けの設備機器の販売が減少

セグメントの概要

■ 売上高 (注1)

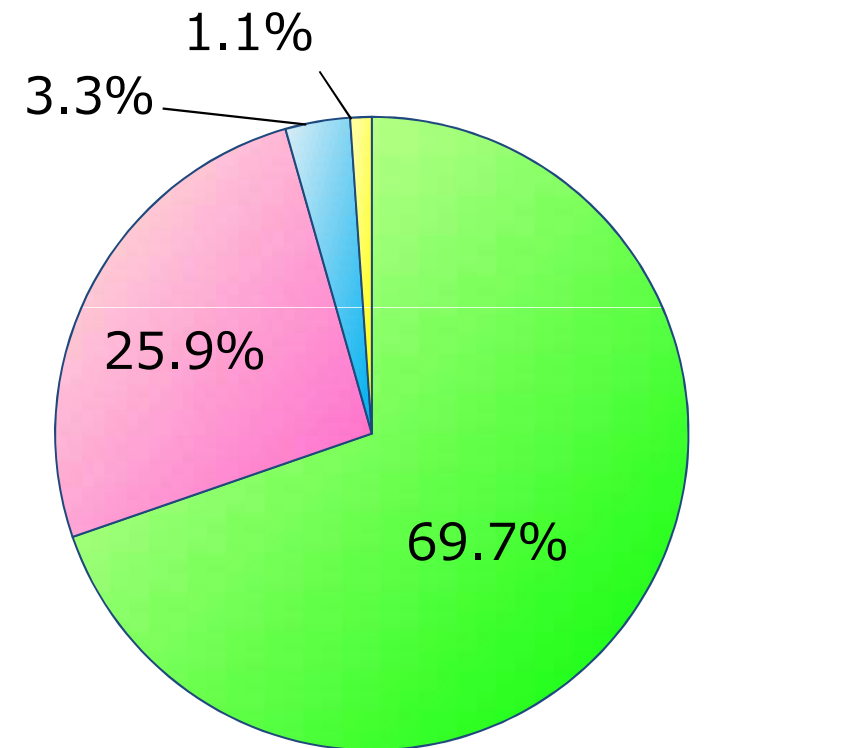
■ 日本 ■ アジア ■ 欧米 ■ その他

(単位：百万円)



■ 売上高構成比率 (16/3月期) (注2)

■ 日本 ■ アジア ■ 欧米 ■ その他



(注1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高

(注2) 外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【日本】

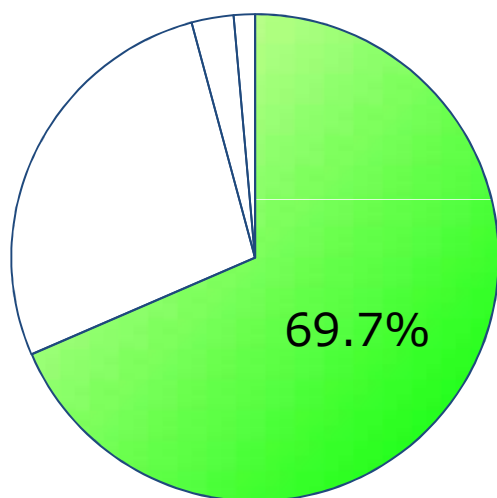
■ 売上高

2016年3月期 79,995百万円（前期比 2.1%減）
2015年3月期 81,749百万円（前期比 5.5%増）

■ 営業利益

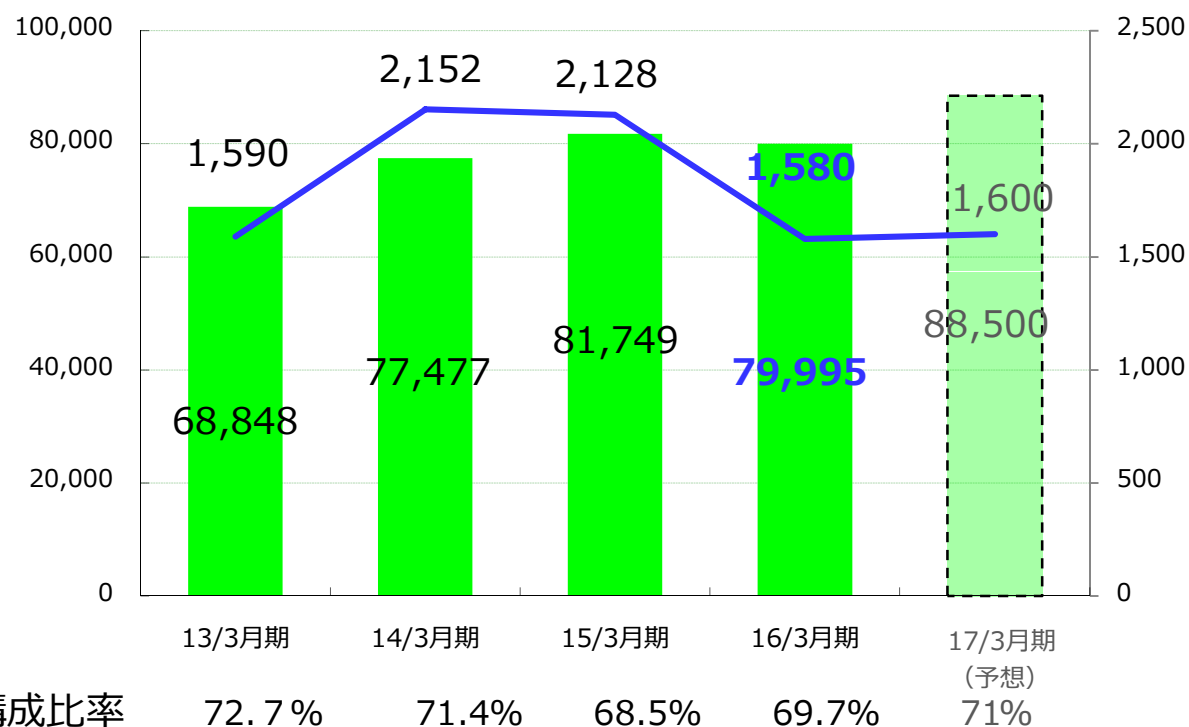
1,580百万円（前期比 25.8%減）
2,128百万円（前期比 1.1%減）

■ 売上高構成比率（注2）



■ 売上高・営業利益推移表（注1）

（単位：百万円）



■ point

- ・半導体製造装置向けの電機品の販売、住宅設備業界向けの実装機の販売が増加
- ・自動車関連業界向け及び産業機械業界向けの電子部品の販売が増加
- ・産業機械業界向けのサーボモータの販売、太陽光発電システム向けの制御機器の販売、アミューズメント向けの電子部品の販売及び液晶搬送設備向けの設備機器の販売が減少

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高

（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【アジア】

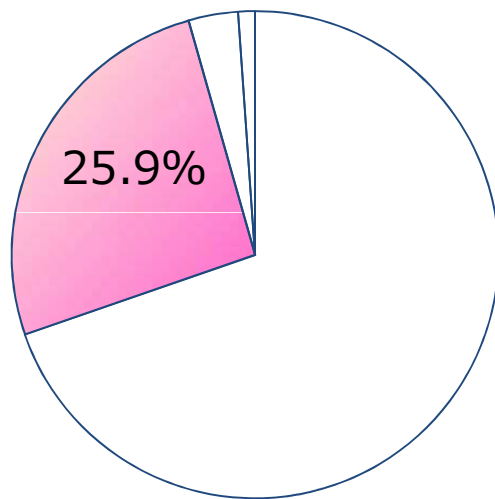
■ 売上高

2016年3月期 30,097百万円（前期比 8.8%減）
2015年3月期 33,014百万円（前期比23.4%増）

■ 営業利益

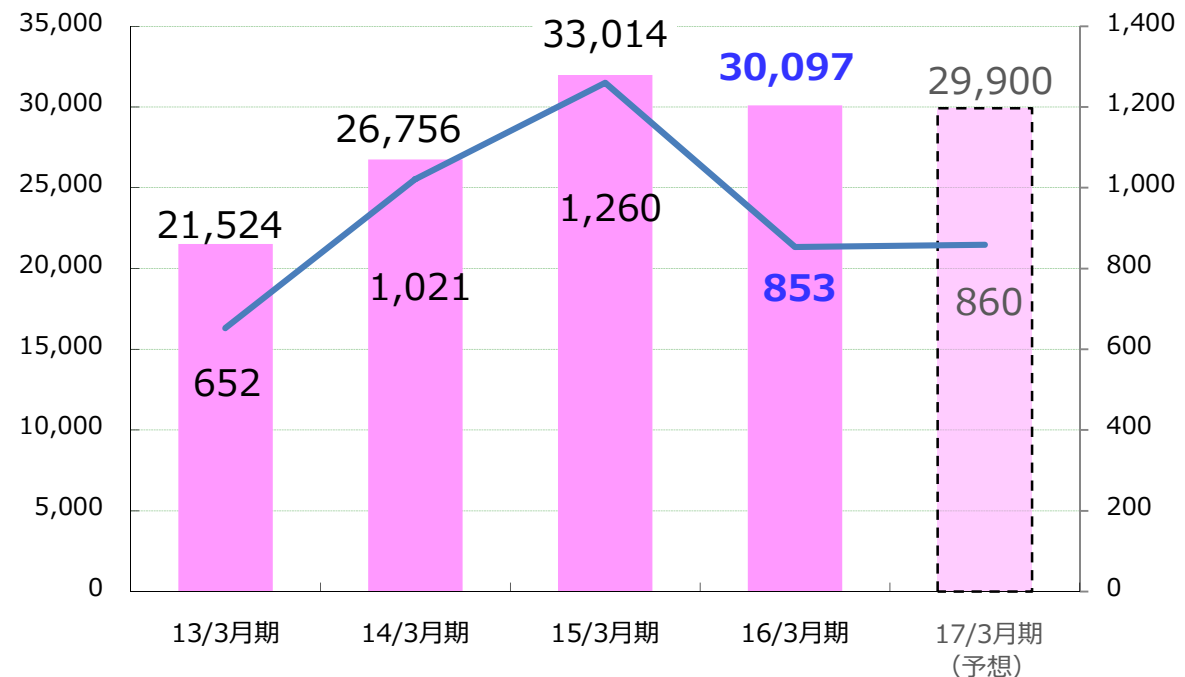
853百万円（前期比32.3%減）
1,260百万円（前期比23.5%増）

■ 売上高構成比率（注2）



■ 売上高・営業利益推移表（注1）

（単位：百万円）



■ point

- ・ 産業機械業界向けの電子部品の販売が増加
- ・ アミューズメント向けの電子部品の販売が減少
- ・ 中国経済減速の影響を受けて、産業機械業界向けの電機品の販売及び電子部品の販売が減少

売上高構成比率

22.2% 24.5% 27.3% 25.9% 24%

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高

（注2）外部顧客に対する売上高

セグメントの概要【欧米】

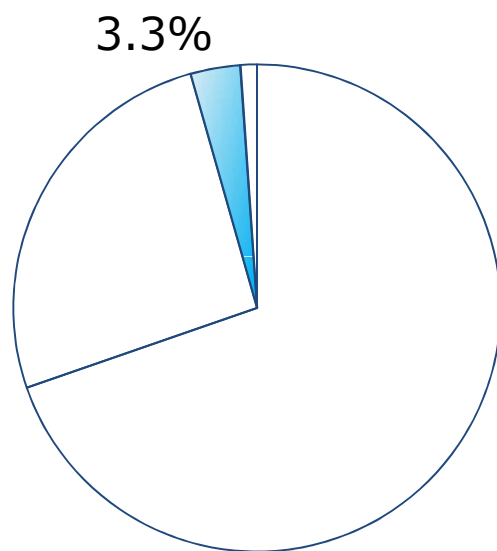
■ 売上高

2016年3月期 3,685百万円（前期比7.4%増）
2015年3月期 3,431百万円（前期比7.5%増）

■ 営業利益

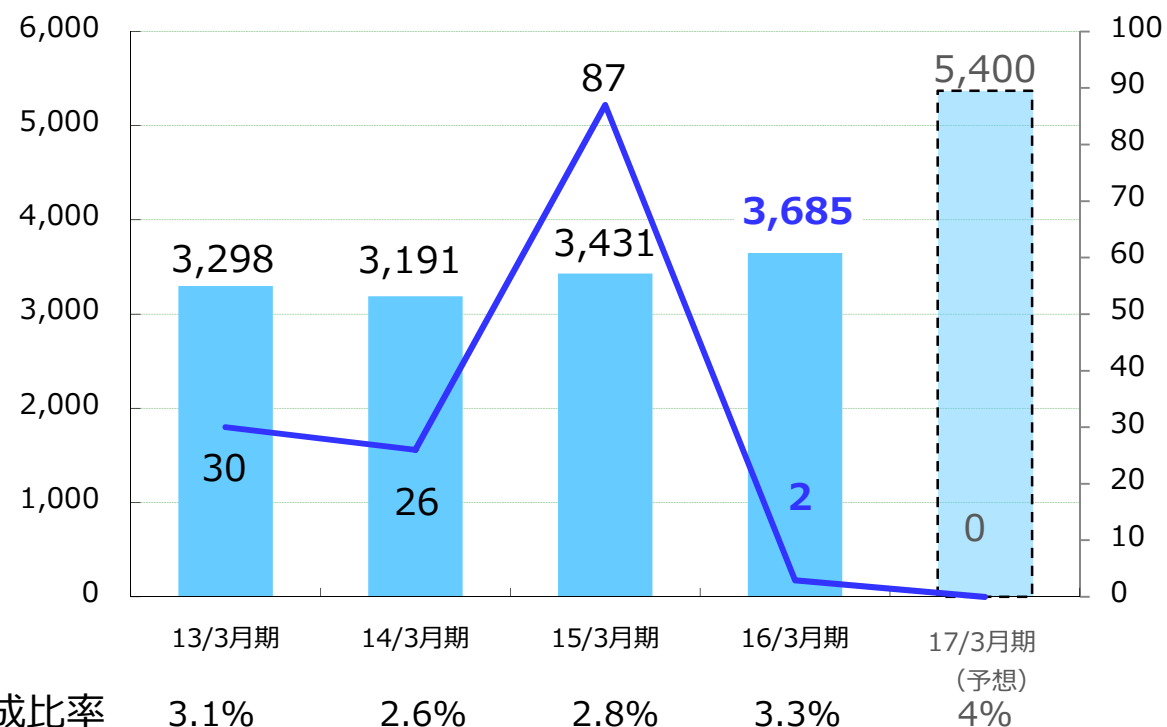
2百万円（前期比 96.6%減）
87百万円（前期比225.3%増）

■ 売上高構成比率（注2）



■ 売上高・営業利益推移表（注1）

（単位：百万円）



■ point

- ・自動車業界向けの生産設備の販売が増加
- ・インバータ向けの電子部品の販売が減少

■ (16/3月期)(17/3月期)が減益の主な要因

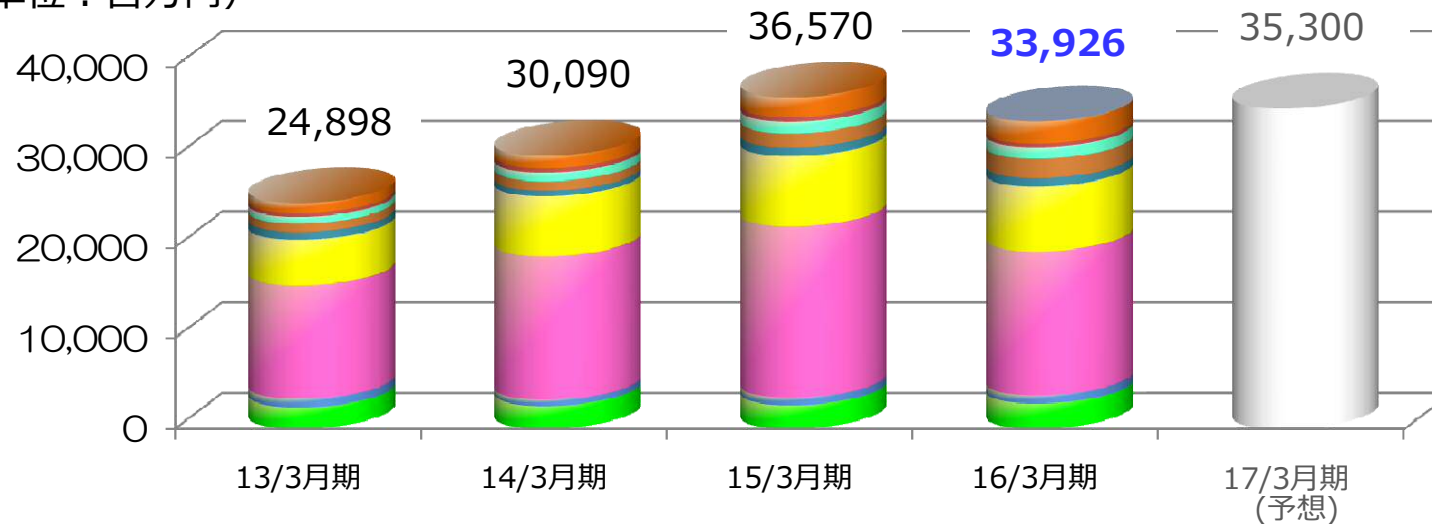
- ・積極的な投資を行った結果、販管費が増加
主な内訳（人員増、販売拡大に伴う倉庫拡張、メキシコに現地法人開設、ロサンゼルスに事務所を設立）

（注1）セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高

（注2）外部顧客に対する売上高

海外現地法人売上高推移

(単位：百万円)



- フィリピン
- インドネシア
- メキシコ
- タイ
- マレーシア
- シンガポール
- 台湾
- 深圳
- 香港
- 上海
- ヨーロッパ
- アメリカ

海外事業の
売上高比率

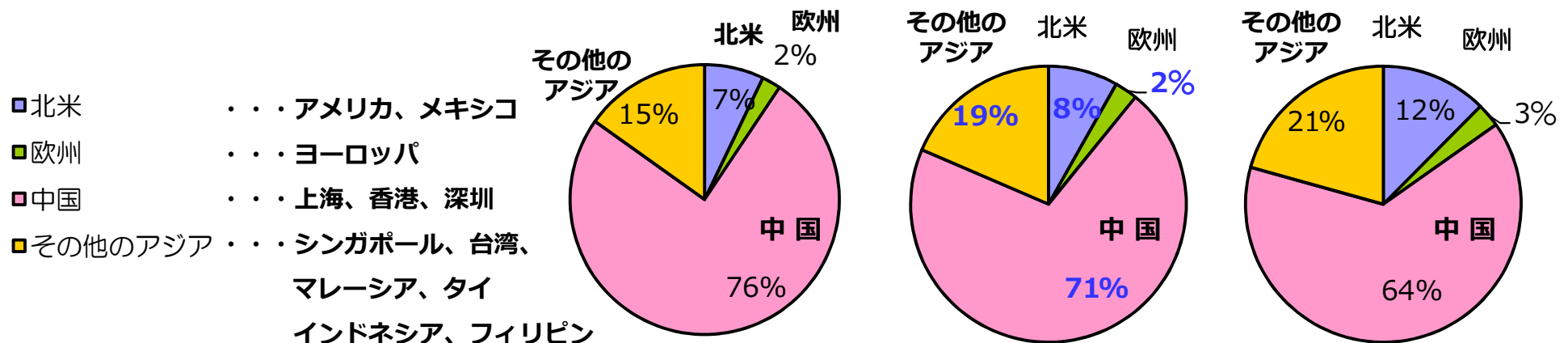
28.2 %	29.7 %	32.9 %	32.1 %	31 %
--------	--------	--------	--------	------

海外売上高構成

2015年3月期

2016年3月期

2017年3月期 (予想)

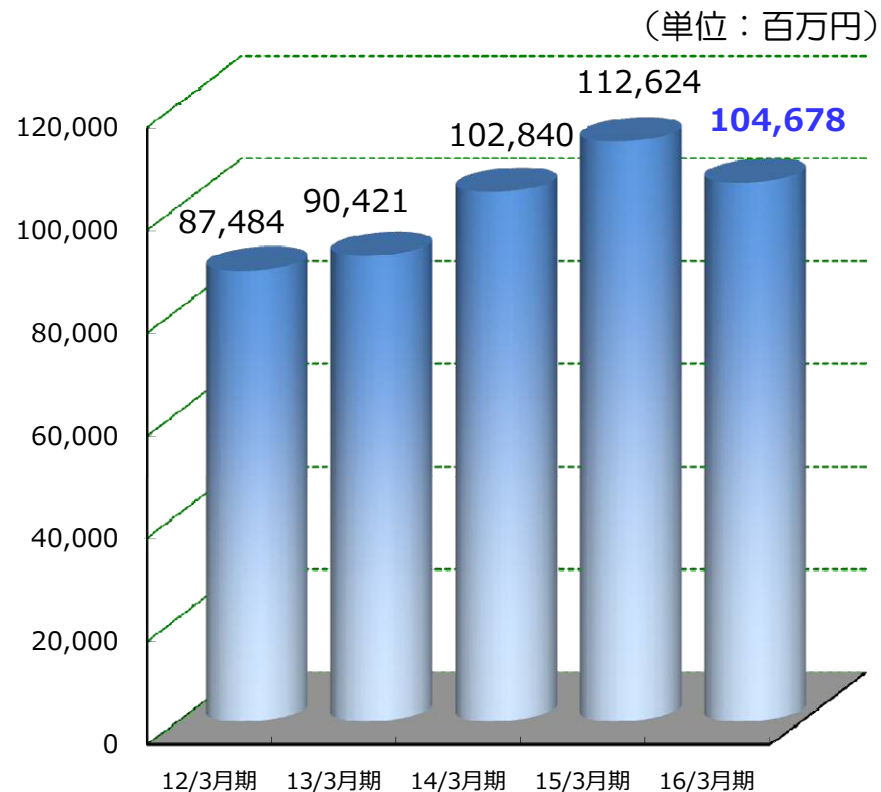


受注高・受注残高の推移（連結）

（単位：百万円）

	前期	当期	増減額	対前期増減率
受注高	112,624	104,678	△7,946	△7.1%
受注残高	17,656	16,587	△1,069	△6.1%

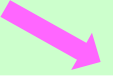
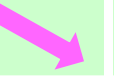
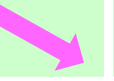
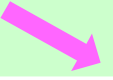
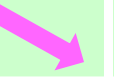
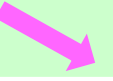
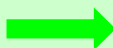
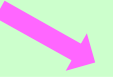
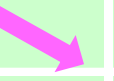
■ 受注高



■ 受注残高



2016年3月期（個別）業界別売上高・主要仕入先

得意先 (業界)	対前年同期増減（矢印） 及び シェア（%）					
	2014/3		2015/3		2016/3	
F A ・ 産業機器		26.4%		26.7%		29.7%
半導体・液晶		9.5%		9.5%		8.3%
自動車		7.3%		7.4%		8.2%
アミューズメント		5.9%		7.7%		6.6%
情報・通信		4.4%		4.6%		3.5%
社会インフラ		2.6%		2.1%		2.8%
環境・エネルギー		5.0%		2.6%		2.6%
ロボット・マウンター		2.2%		2.6%		2.3%
工作機械		1.7%		1.9%		2.2%
医療機器		1.5%		1.4%		1.8%
セキュリティ		0.2%		0.2%		0.2%

仕入先
(株)安川電機
オムロン(株)
リコーインダストリアル ソリューションズ(株)
ミネベア(株)
TDKラムダ(株)
JABIL CIRCUIT LTD.
フエニックス・コンタクト(株)
ケル(株)
スタンレー電気(株)
オムロン直方(株)
その他の仕入先で約60% (約1,900社)

連結キャッシュ・フロー

- 現金及び現金同等物は前会計年度末と比べ1,225百万円減少し、当会計年度末は5,875百万円となりました。

(単位：百万円)

	当期	主な要因
営業 C F	△60	減少要因：仕入債務の減少 法人税等の支払 増加要因：税金等調整前当期純利益
投資 C F	△384	減少要因：投資その他の資産の取得 有形固定資産の取得
財務 C F	△654	減少要因：配当金の支払
現金及び現金同等物 期末残高	5,875	———

(連結) 貸借対照表比較表

(単位：百万円)

	前期	当期	増減額	主な要因
資産合計	58,748	55,439	△3,309	現金及び預金、受取手形及び売掛金、投資有価証券の減少
負債合計	36,797	33,176	△3,621	支払手形及び買掛金の減少
純資産合計	21,951	22,263	311	利益剰余金の増加

配当金の推移

期	中間	期末	年間	配当性向
				連結
13/3月期	10円	10円	20円	16.8%
14/3月期	10円	12円	22円	13.5%
15/3月期	12円	14円	26円	15.1%
16/3月期	14円	14円	28円	23.8%
17/3月期	14円 (予想)	14円 (予想)	28円 (予想)	22.3%

※当社は、株主の皆様に対して安定した配当を継続するとともに、業績の進展状況により増配や株式分割などを実施して行くことを基本方針としています。



■ 2017年3月期 業績予想

■ 第9次中期経営計画(Challenge 1500)について

2017年3月期 業績予想について（連結）

（単位：百万円）

	2016年3月期 実績	2017年3月期 業績予想			対前期(通期) 増減率
		上期	下期	通期	
売上高	105,748	55,000	59,500	114,500	8.3%
営業利益	2,444	1,050	1,450	2,500	2.3%
経常利益	2,645	1,150	1,550	2,700	2.1%
当期純利益 (※)	1,690	800	1,000	1,800	6.5%

（業績予想の前提となる為替レートは、1米ドル=110円 1ユーロ=124円 1中国元=16.9円）

【2017年3月期の見通し】

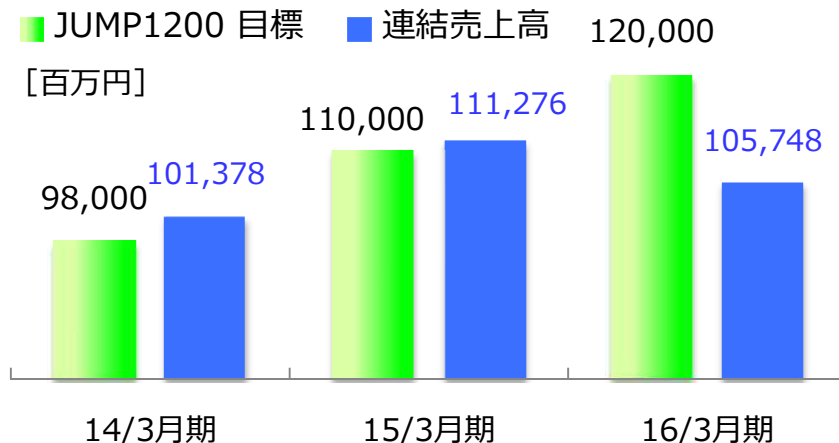
自動車業界向けの売上高は増加、F A・産業機器業界向けの売上高は減少の見通しです。また、海外現地法人の売上高につきましては、積極的な事業拡大を行っており増加を見込んでおります。しかしながら、採用による人件費の増加など、海外事業拡大の為の投資に伴い販管費が増加の見通しの為、利益は微増の予想となっております。

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

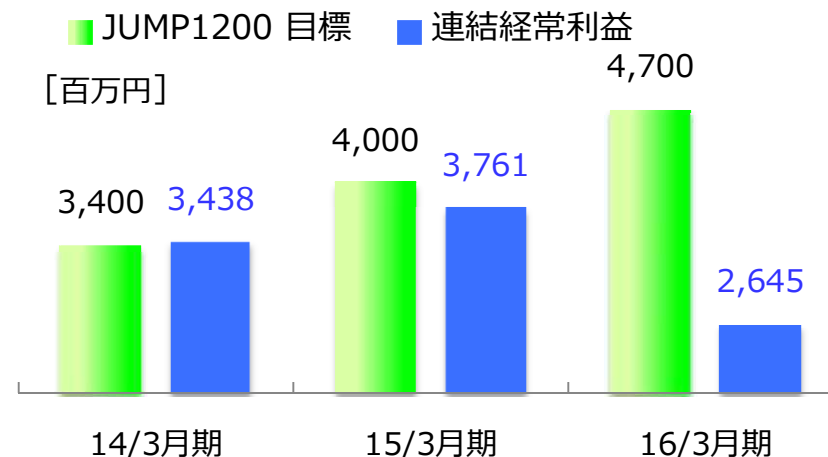


- 第9次中期経営計画(Challenge 1500)について

【連結売上高】



【連結経常利益】



第8次中期経営計画 (JUMP1200)

1年目 2014年3月期 目標達成

2年目 2015年3月期 (売上高) 目標達成 (経常利益) 目標未達成

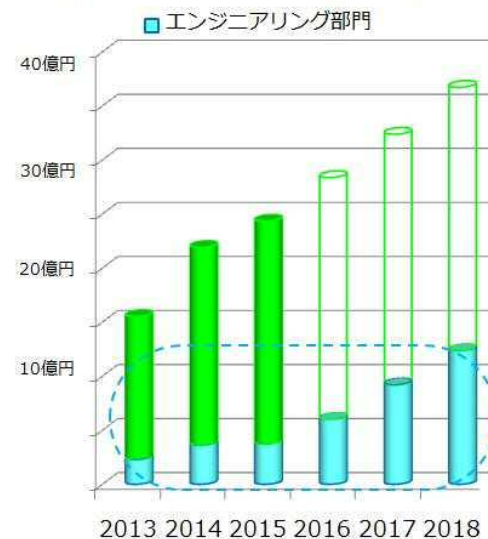
3年目 2016年3月期 目標未達成

重点施策に掲げる新エネルギー等環境事業の分野やロボット等省力化の分野などの成長市場への注力やサンワグローバルネットワークを活用した積極的な海外事業展開により海外売上高が増加し、特にサンワテクノスタイルのエンジニアリングビジネスは増加傾向で推移し業績をけん引しました。

しかしながら、中国経済減速の影響を受けて半導体関連業界、産業機械業界は厳しい受注環境が続く、また、第9次中期経営計画 (Challenge 1500) も見据えて積極的な先行投資を展開いたしましたが、当初見込んでいた市場の伸長に対して力強さを欠く展開となり、第8次中期経営計画 (JUMP1200) の目標は未達成となりました。

(参考)

売上高推移 (サンワテクノスタイル)



売上高推移 (エンジニアリング部門)



(JUMP1200) 重点施策

◆電機・電子・機械の複合ビジネスとエンジニアリング力を最大限発揮できる組織の構築

- ・本社移転に伴う事業所統合による電機・電子・機械の総合力の発揮及び業務効率化
- ・エンジニアリング力を発揮できる組織運営を行うためにサンワテスコム
エンジニアリング力を吸収し、当社のヒト・モノ・カネを活用して提案から
設置までワンストップソリューションを展開

◆新興国を始め、海外事業を更に拡大する

- ・海外事業所の開設

ベトナム駐在員事務所	2013年8月	(1年目)
インドネシア現地法人	2014年10月	(2年目)
フィリピン現地法人	2015年9月	(3年目)
メキシコ現地法人	2015年9月	(3年目)
ロサンゼルス事務所	2016年1月	(3年目)

◆成長市場の開拓を積極的に進め、新規事業の確立を目指す

- ・成長市場をターゲットにした商談

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
分野	実績	実績	実績
新エネルギー	約 4 5 億円	約 7 8 億円	約 4 5 億円
省力化	約 1 7 億円	約 3 0 億円	約 6 6 億円
介護・医療	約 3 億円	約 1 1 億円	約 1 4 億円
社会インフラ	約 1 億円	約 8 億円	約 1 0 億円
合計	約 6 6 億円	約 1 2 7 億円	約 1 3 5 億円

◆グローバルロジスティック機能の拡充強化

- ・香港物流センター開設 2013年10月

◆サンワテクノスグループの管理体制整備

- ・サンワグローバル販売管理システムの
構築プロジェクト立上

◆社是を基本とした人材教育体系を確立

- ・研修制度の充実
(管理職研修、3年目一人立ち研修、
マンツーマンリーダー研修)
- ・海外トレーニー制度導入

第9次中期経営計画（2016年度～2018年度）

Challenge 1500

A light green world map is positioned behind the main title 'Challenge 1500'. The map shows the outlines of the continents in a darker shade of green against a lighter green background.

2019年度 創立70周年に向けて

2016年5月10日

サンワテクノス株式会社

代表取締役社長 山本 勢

人口構造の変化

- 日本：少子高齢化と人口減少の同時進行
- 先進国：人口減少
- 新興国：アジアやアフリカの人口増加

経営環境

- 日本：景気の足踏みが長期化
- 海外：中国をはじめとした新興国に加え、米国でも景気減速が懸念

当社を取り巻く環境

世界経済および当社グループの関連している産業用エレクトロニクス・メカトロニクス業界は、今後とも先行き不透明な状況が続くものと予測されるなか、さまざまな産業分野で技術の多様化とグローバル化が急速に進展する時代の変化に対応していきます。

ICT^{*1} 化の進展

- IoT^{*2} デバイスの増加
- ビッグデータ^{*3} 活用の進展

新技術の開発

- クルマの自動運転支援システム技術の向上
- 医療機器の進化

*1. ICT(Information and Communication Technology) : 通信コミュニケーションの重要性を加味した情報技術
 *2. IoT(Internet of Things) : 「モノ」が相互接続するネットワーク
 *3. ビッグデータ : 事業に役立つ知見を導出するためのデータ

サンワビジョン 2025

明るい未来を創る **サンワテクノスグループ**



Challenge 1500

方 針

電機・電子・機械のコアビジネスでお客様のものづくりに貢献する

独自の付加価値ソリューションを提供する

技術商社として最新の技術情報を提供する

グローバルネットワークの完成度を上げてグループ力を強化する

Challenge 1500

事業戦略

電機・電子・機械分野の最新技術と
優れた製品情報を融合させたコアビジネスに、
ものづくりの先鋭化をサポートする
エンジニアリング力と
グローバル SCM ソリューションをプラスし、
グローバルに活躍する独立系技術商社として
新たな価値を生み出します。



システム、装置、部品・コンポーネント販売事業

最適なシステム、装置、部品、機器を供給しお客様の製品を支援します

- 主要メーカーの代理店販売を拡大 → さらなる協業関係を強化
- お客様のシーズ・ニーズの先取り → 新製品の発掘
- お客様へ最新技術情報を発信

エンジニアリング事業

自動化システム、省エネ製品を提案しお客様のものづくりを支援します

- ICT技術を活用した「未来のものづくり」を目指す
- ロボットを活用した自動化システムの提案
- 省エネや省電力を目指したシステム提案

グローバルSCMソリューション事業

お客様の物流業務を包括的に受託し、最適ソリューションで資材調達から
生産、販売、リサイクルに至る一連の企業活動における物流合理化による
お客様のコア事業の拡大支援を実現します

- 生産移管などお客様のものづくりの支援（移管作業の効率運用）
- グローバルネットワークを駆使し、最適商流・調達を提案
- 現地調達の支援（現地メーカーの紹介と工場監査の支援）

Challenge 1500

経営目標

創立70周年の2019年度1,500億円、さらには2025年度2,500億円の連結売上高に
チャレンジするための基盤づくりを着実に進めます。

【連結】

(単位：百万円)

	2016 年度 (2017 年 3 月期)	2017 年度 (2018 年 3 月期)	2018 年度 (2019 年 3 月期)
売上高	117,000	126,000	137,000
営業利益	2,800	3,500	4,300
営業利益率	2.4%	2.8%	3.1%
経常利益	3,000	3,700	4,500
経常利益率	2.6%	2.9%	3.3%

(経営目標の前提となる為替レートは、1米ドル=117円 1ユーロ=128円 1中国元=17.8円)

Challenge 1500

重点施策

電機・電子・機械のコアビジネスをさらに強化する
(主要取引先との関係強化、代理店事業の拡大)

「エンジニアリング事業」「グローバルSCMソリューション事業」の確立

海外事業の強化 (ローカル企業の開拓、グループ力強化)

ICT 技術の活用による IoT ビジネスの構築

企業風土改革の推進 (ダイバーシティの推進、グローバル人材の育成)

成長市場をターゲットにした商談

(新第7次中計から取り組んでいる商談管理の現時点の状況)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期以降
分野	実績（売上済）	実績（売上済）	商談中
新エネルギー	約 7 8 億円	約 4 5 億円	約 5 8 億円
省力化	約 3 0 億円	約 6 6 億円	約 1 1 3 億円
介護・医療	約 1 1 億円	約 1 4 億円	約 9 億円
社会インフラ	約 8 億円	約 1 0 億円	約 1 6 億円
合計	約 1 2 7 億円	約 1 3 5 億円	約 1 9 6 億円

商談事例

- ・自動車エンジンブロック加工ライン向け制御盤
- ・スーパーマーケット向け冷蔵ショーケースのLED照明化
- ・半導体工場向けチラー装置
- ・プラスチック成型機取出用ロボット
- ・化学繊維企業向け高速計数機
- ・工場内自動化用マウンタライン
- ・太陽光パネル設備向けロボット

以上のように、高い成長性・収益性・安定性を求めて、経営に努力してまいりますので、今後も一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。